

# 外国語への招待

言語センター長 副島 美由紀

新生の皆さん、小樽商科大学へようこそ。新型コロナウイルスの地球規模の拡大という困難な時代に、本学を選んで入学してくれた皆さんを、温かく歓迎したいと思います。通常通りの生活に戻れる時期がなかなか見通せない中で、大学生としての新生活に不安を感じている面もあるでしょう。しかし同時に、新たなチャレンジに立ち向かう意欲も、皆さんの心の中では高まっているのではないのでしょうか。困難を前にして怯むのではなく、負けずになるべく多くのことを成し遂げようとする意気込みは人を前進させるものです。皆さんの若い力で様々な局面に立ち向かっていって欲しいと思います。本学も色々なかたちで皆さんに手を差し伸べることでしよう。

さて、そんな皆さんがすぐに考えねばならない事の一つに、外国語の選択があります。本学では（昼間コースの場合）7カ国語（英・独・仏・中・露・西・韓）の外国語科目を提供しています。大学生の国際スタダードは2つの外国語を修得することですから、皆さんもこの7つの中から2カ国語を選択して履修するわけですが、これほど多くの外国語から全ての学生に2カ国語選択必修を課している大学は、道内では本学以外に例がありません。これは、本学に創立以来伝わる外国語重視の伝統があるからです。

本学のモットーは「実学・語学・品格」です。なぜここに語学があるのかと言うと、本学は明治末期から世界に通用する商業人の養成を目的としており、語学は世界を舞台に活躍する人材にとって、なくてはならない道具だからです。このモットーに従い、本学は戦前から多くのネイティブ・スピーカーを講師に迎え、語学教育に力を注いできました。本学が輩出した二人の作家、小林多喜二と伊藤整が、小樽市民を前にしてメーテルリンクの『青い鳥』をフランス語劇として演じたのも、教養語学を重んじた本学の校風を体現する一風景でした。以来、社会科学系単科大学であるにも係わらず、「北の外国語学校」と呼ばれるほどの語学教育充実度が、ここでは維持されているのです。

では、外国語選択に話を戻しましょう。皆さんが

外国語の中から2つを選択するとして、それらの外国語教育を本学で担当している部門が、現在の「言語センター」で、その提供科目は様々です。まず皆さんは最初の2年間で、必修の2外国語（「～語Ⅰ/Ⅱ」）を修得します。さらに力を伸ばしたい人のために、英語以外の外国語では選択科目の「外国語コミュニケーション」や「国際コミュニケーション」が開講されており、また上級者向けには全語系による「上級外国語」が用意されています。特に英語系では、ゼミ・教職科目を始め、4年間を通じて多彩な科目が開かれており、専任スタッフはネイティブ・スピーカー3名を含め9名を数え、その教育内容は充実しています。さらに、外国語学習の集大成として、海外への留学も可能です。本学には現在17カ国・地域の23の協定締結大学に向けた学生派遣プログラムがあり、半年または1年の留学によって実際の異文化体験を享受する学生も少なくありません。

施設の点でも、言語センターは着実に進歩しています。LL教室2室、BL（ブレンディッド・ラーニング）教室3室、CAL（キャル・ラボラトリー）、国際交流スタジオ（BL4）といった授業用の教室の他に、学生の自習用にマルチメディア・ライブラリーを備えており、外国（語）に関する豊富な資料を、AV機器やPCを備えた個人ブースで視聴することができます。音声教材、映画作品、ラジオやテレビ講座、英字新聞、多読・速読用の洋書、TOEICや各種検定試験等の問題集など、様々な資料・教材を揃えています。皆さん、入学後は言語センターをぜひ積極的に、総合的に活用してください。

現在、インターネットやSNSの発達によって世界は狭くなりました。しかし、日韓や中米の対立、世界的な難民・移民の増加、人種差別と国内の分断など、伝統や文化の違いによる社会的な軋轢がまだ地球の至る所で見受けられるのも事実です。が、複数の外国語を学ぶことによって自らの価値観を相対化し、世界に対する公正な判断能力が養われるなら、グローバル社会のより良きプレーヤーになれるはずです。皆さん、そのようなプレーヤーになりましょう。言語センターはそんな皆さんを様々な場面でサポートします。